

備前市「アカマツ林再生」に向けて！

1 テーマの趣旨・目的

岡山県の南東部の瀬戸内海に面する備前市は古くから焼き物が盛んに行われ「備前焼」としても有名である。

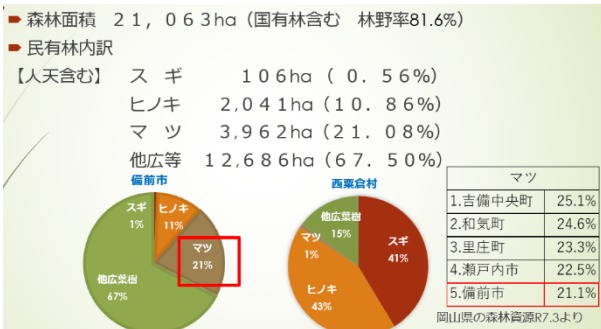
備前市のアカマツは、市の産業である備前焼の燃料や建築資材として大事な役割を担っているが、松枯れの影響で衰退の一途を辿っている。

こうしたことを背景に、アカマツ林再生による地域環境の整備と地域経済の循環を目的に「備前市アカマツ林再生推進協議会」(以下、「協議会」という。)が令和6年7月に設立され、官民一体となり地域ぐるみでアカマツを増やす活動を継続して、取り組んでいくこととなっ

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

た。(1) 現状

備前市の森林面積はスギ・ヒノキの12%に対しマツは21%と1/5を占め、県下で5位となっている。マツは備前焼を作る登り窯で燃料として使われてきたが近年、所有者の高齢化により森林整備が行き届かず、また、松枯れにより減少している。



(2) 取組内容

備前市と県で協議を重ね、普及指導員は、アカマツ林再生に向けて、より多くの方にアカマツに親んでもらうよう、植樹イベント開催等の提案を行った。

また、市や県、関係団体と協議を重ねた結果、協議会が設立され、初年度は、アカマツの植林、枝打ち等のイベントを2回開催した。※抵抗性マツ 400本植栽



(3) 成果

参加した地域の子供たちや備前焼作家、延べ85名に対して、アカマツが成長するまでの過程や森林の働き大切さを学べる場となり、引き続き活動への参加に意欲的であった。

(4) 課題

植栽木がウサギの食害を受けたため、獣害対策が急務である。また、下草が繁茂し、植栽木の被圧防止及びウサギ等の野生動物が身を潜める場所とならないよう下刈りが必要である。

<ウサギの食害>



<下草による被圧>



3 今後取組むべき内容

(1) 具体的手法又は検討方法

R7.7.13 協議会総会が開催され、獣害対策として、忌避剤や防護柵、チューブ等の試験設置による対策効果の検証、下刈りの実施等を協議会と一緒に検討することを申し合わせた。

<R7.7.13 協議会総会>



(2) 期待する成果

アカマツ林の再生に向けた活動は、始まったばかりであるが、この活動が地域に根付き、継続した活動に定着していくことを実現するために、我々普及指導員は、次の3つを目標に取り組んでいきたいと考えている。

1 森林整備の技術的指導

・植栽から下刈り等の管理や適確な獣害対策により、「獣害に負けないアカマツ林の育成」を図る。

2 森林(資源)の大切さ重要性の普及

・先人が残した資源、財産を後生に残していくため、地域住民への出前講座等の実施。

3 森林環境譲与税等の活用促進

・地域住民のため、より効果的な活動となるように森林環境譲与税等の活用促進を働きかけをしていき、地域に寄り添った支援を継続する。